

## まえがき

本書は「ニューアプローチ中級日本語 基礎編」に続く教科書である。基礎編では、初級終了時から中級への橋渡しと中級レベルの土台固めのために、基礎となる文型・表現を体系的に学習しながら、読む力をはじめ4技能を総合的に高めていくことを目指した。見方を変えれば、どんな時にどんな文型・表現が使われるかを学習し、「文レベル」での4技能の基礎をしっかりと築くことを目指したわけである。

そこで、次に求められるのはより大きな単位としての「談話レベル」の日本語の学習である。文章の中で主題がどのように提示され、それぞれの要素がどのように並べられ、組み立てられているのか、話がどのように展開しているのか、どうまとめられているのか、そういった大きなまとまりとしての日本語の学習が必要になる。この教科書では「基礎編」の形式を受け継ぎながらも、大きな切り口を「概念シラバスの文型・表現」から「談話のための文型・表現」とし、最終的に一つのまとまった文章が読め、一つの流れのある会話ができる力がつくように編集されている。

日本の大学へ進学するに当たって求められる日本語力については、従来の「日本語能力試験」から「留学試験」へと移行することで、単なる知識の詰め込みではなく、コミュニケーション能力が重視されるようになった。そこで、何をどの程度学習すればいいのか、中級のカリキュラムの見直しが必要になっている。この教科書はそれに対する一つの指針を示したものである。語彙については、留学試験に対応すべく「アカデミックジャパニーズ」の分野・場面を積極的に取り入れている。また本書の最後の課のほうでは、読解は上級レベルのものになっており、聞き取り練習は単なる聴解問題だけではなく、聴読解も取り入れ、最終的には講義を聴く技術につながる内容になっている。このように大学へ進学するにしても、日本の社会で生活するにしても、身につけた日本語力によってその後は自律的に学習でき、コミュニケーションできる能力が身につくレベルを一つの目標としている。本書は「基礎編」に続き、「完成編」と名付けられているが、まさにその目標を達成するという意味が込められている。

本書はメインで使用される教科書として、従来のような本文、文型・表現、練習問題という体裁をとりながらも、その中身はこれまでにない構成と内容になっている。中級、そして上級への橋渡しの段階における一つの指針となることを願いつつ、各方面からご意見、ご批判を賜りながらさらに良い教科書にしていきたいと考えている。

## ニューアプローチ中上級日本語「完成編」の特徴

### ニューアプローチの3つの柱

#### 第1の柱（談話の文型・表現）

- ・ 談話レベルの日本語の学習という視点から、大きく9つのテーマを設定し、中級で学習すべき項目（一部は上級レベル）を12課に分けて提出している。
- ・ 学習項目は概ね文レベルから談話レベルへと、より大きなものになるように配置されている。
- ・ テーマごとにまとめて学習することのメリットを最大限に生かし、その一方で一度に学習することにかかる負担を考慮し、後の課の本文や例文で出てくるものについてはその情報を示し、学習する時期に柔軟性を持たせている。
- ・ 各課の最初に「初級」「基礎編」で学習した文型が提示されていて、必要に応じて補充・復習ができるようになっている。
- ・ 学習項目には全て意味・用法、例文が付いているので、教える側、教わる側双方にとって使いやすくなっている。（解説は学習者も理解できるように簡潔でポイントをおさえた内容となっている。）

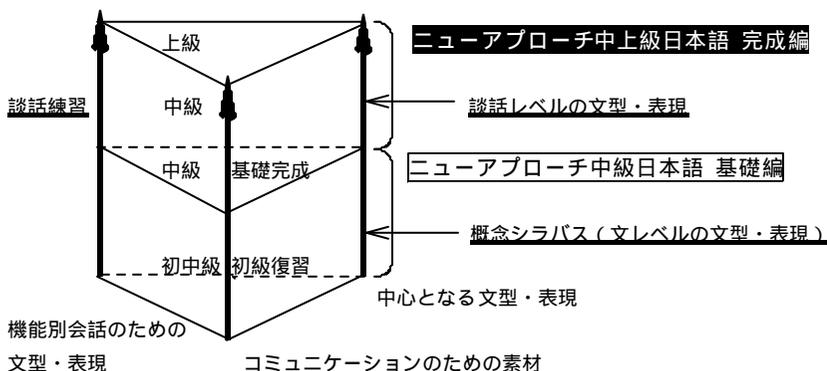
#### 第2の柱（機能別会話のための文型・表現と談話）

- ・ 「談話のための会話文型・表現」の章を設け、全体で6つの機能別の文型・表現が学習できる。
- ・ 「基礎編」で学習した機能別の文型・表現の流れを受け継ぎながら、本書が目標とする「談話レベル」の会話ができるように編集されている。

#### 第3の柱（コミュニケーションのための素材）

- ・ [その他の文型・表現]として学習する項目の中に「形式名詞」「取り立て助詞」「陳述の副詞」を中心とした文型・表現が含まれており、第1の柱と同様に整理して配置してある。
- ・ 中級～上級レベルで学習される文法（＝いわゆる機能語と呼ばれる複合辞）のうち中級レベルと上級につながるものが厳選されて配置されている。
- ・ 陳述の副詞については、その数はかなりの数に上るため、[文型・表現]として取り上げたのは一部ではあるが、単語レベルでは中級レベルで学習すべきものを各課に配置してある。

### 3つの柱の概念図



### 読解スキルと聴解スキル

- ・ 3課ごとに長文読解練習が付けてある。それまでに学習した文型・表現を復習すると同時に「読む」練習をする課である。文法を学ぶために精読する文章ではなく、それまでに学習したことを生かして「読む」練習をする。そして練習ごとに読解スキルを学べるようになっている。
- ・ 聴解練習は留学試験に対応するために、「聴解問題」も取り入れている。最後のほうでは、通常の聞き取り練習にとどまらず、講義を聴く練習にもなっている。（聴解問題のCDは別売）

### 発展

各課の本文、聴解練習ごとに応用発話のための設問、作文練習ができるようなトピックを提供している。応用発話や作文などに役立つように「関連語」も整理して提出されている。

## 語彙

- ・中級に入ると漢語の語彙がかなりの量を占めるが、本書では学習者が漢語の使用に偏り不自然に硬い文を作らないように、中級レベルの和語動詞を積極的に取り入れている。
- ・複合動詞も積極的に取り上げ、一部は「関連語」としてまとめている。
- ・過去の留学試験を参考に、アカデミックジャパニーズの分野の基本的な語彙を収集し、例文や会話文などで使用している。
- ・本書を終えると、慣用句も含め、およそ5,400の語彙を学習することになる。  
(初級2,000、基礎編1,500、完成編1,900 これは教科書で新出語として提示された語彙の概数である)

## 各課の基本構成

【本文を読む前に】本文の理解を助けるため、また学習者の動機付けのための設問。

【本文】各課の文型・表現が使われている読み物。

【本文設問】本文の内容についての質問（一部は推察して答える問いになっている）。

【本文新出語】本文で使われている単語のうち未習のものを品詞ごとに分類して提示。注1

【単語の意味の確認】本文で使われている単語を新出語を中心に意味を確認するための問題。

【文型・表現】その課で学習する項目の提示と用例。

[初級、中級基礎編で学習した文型・表現] その課のテーマに属するもので既習のもの確認。注1

[の文型・表現] その課の中心となる文型・表現。

[その他の文型・表現]

【文型・表現の練習】短文完成の練習問題。

【発展(話し合い/作文)】本文のテーマ、またはそれと関連することについて考え、自分の考えを表現したり書いたりするための設問。

【関連語の学習・単語のまとめ】その課のテーマや内容と関連のある単語をまとめて提示。

または、それまでに学習した単語をテーマ別にまとめて提示。

【聞き取り練習】その課のテーマとつながることを話題として取り上げ、聞く練習をする。

「聴解」と「聴読解」の二つの形式がある。

[テスト問題] 留学試験の対策用に作られた問題。

[補充問題] 通常の聴解練習用のための設問。

[発展] 聴解の内容やそれに関連することについて考えるための設問。

注1：本書は『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）『ニューアプローチ中級日本語 基礎編』で扱われた文法・語彙を、既習のものとして扱っている。

## 記号について

[記号] [意味]

[使用例]

\*

新出語

本文の単語の左肩に付けられている  
初級で学習した文型・表現  
基礎編で学習した文型・表現  
完成編で学習する/した文型・表現  
反対語、自他動詞、対応する単語

\*

親しみ

~について  
~に関して  
なんとか  
未婚 既婚 添える 添う  
悲しむ 悲しい

参照事項 ( 文型・表現 )	「～ことはない」	「～というのは」		
	「～からすれば/しても」	L.9		
参照事項 ( 単語 )	L.3 本文	L.3 文型	L.3 練習	L.3 単語
ほかにもどの課のどのパートで扱われているかを示す	会話2	長文2		
文型:「文型・表現」の例文	練習:「文型・表現の練習」の文	単語:「単語の意味の確認」の文		

動詞の活用 ( 接続する形 ) の示し方について

- ・[ 動詞(ます)形 ][ 動詞(ない)形 ]:「ます形」「ない形」の語幹に接続する。
- ・[ 動詞辞書形 / た形 / て形 / ない形 / 意志形 / 可能形 ]: それぞれの形に接続する。

表記について

- ・常用漢字表 ( 及びその音訓 ) にないものは原則として漢字表記はしていない ( 注2 ) 。
- ・送りがなについては、いわゆる「許容」とされる送り方をとらず、「本則」に従っている。
- ・新出語は別に欄を設け ( 注3 )、そこでルビを振って提示、文章の中ではルビは振られていない。
- ・「初級」「基礎編」で既習の語彙であっても、本書で初めて漢字で提出する場合にはルビが振られている。

注2: 新聞協会用語懇談会で使用することにした漢字 ( 45字 ) と1音10訓に限り、生教材を読む場合のことも考慮し、使用している。ただし、使用文中にはルビを振り、新出語の場合には漢字は〔 〕に入れ、ほかの漢字とは区別して提示している。また、ひらがなでは意味が判別しにくいものについては、参考のために〔 〕に漢字を示した場合もある。

注3: 新出語は原則として、そのページの下に設けた欄に提示されているが、「本文」と「聴解」については、別に新出語の欄を設け、そこに提示している。また、「関連語」については、下線が引かれている。

## 標準的な教科書の使い方

文型・表現 ( 本文で使用されているものを中心に )

本文新出語 ~ 単語の意味の確認

本文読解 ~ 本文設問 ( 注4 )

文型・表現 ( 残りのものを含めて全体 )

練習問題 ( 必要に応じて問題を補充する )

関連語の学習 ( 必要に応じて )

本文の「発展」の設問を使って意見を述べる、話し合う

聞き取り練習

聞き取り練習の「発展」の設問を使って意見を述べる、話し合う

作文 ( 授業中にできなければ宿題にする )

- ・3 課ごとに ( 長文読解練習のあと ) 復習、定期テストなどを実施する。
- ・2 課ごとにある「会話文型・表現」は必要に応じて利用する。( 文型のみ取り上げて学習しても良い ) 会話、談話は付録CDに入っているので、談話を聞く練習として使用することも可能。

本書はメインの教科書として使用した場合、4 ~ 5 か月で終了することを想定している。初級から学習を始めた場合、1年半のコースで、初級を6か月、初中級 ~ 中上級を「基礎編」と本書「完成編」で9か月で修了することで、十分に留学試験に対応できるようになっている。また、2年のコースでは、副教材などを取り入れながらももう少し余裕をもって進めることができるだろう。どちらの場合も、本書を終了後は、生教材を中心とした上級レベルの学習に入ることになる。( 1年のコースの場合は、スタート時点のレベルにもよるが、初級と「基礎編」の組み合わせで、適宜副教材を取り入れるカリキュラムとなる。) 日本語能力試験1級のための勉強をする場合は、本書の特徴であるテーマごとの分類を利用し、各課のテーマにあわせて必要な文型・表現を補充することで効率よく学習できる。

注4: 1 課 ~ 8 課までの本文は約1,000字、9 課が1,200字、10 課 ~ 12 課が1,500字、長文は1,800 ~ 2,000字となっている。9 課の本文から上級レベルの読解教材となっている。

付録CDの内容・トラック番号一覧表



課	内容	CD1 トラック番号	課	内容	CD2 トラック番号
1	本文	1～6	7	本文	1～6
2	本文	7～11	8	本文	7～12
	会話文型・表現1 ・会話1 A B C ・会話2 A B ・会話3 ・談話例	12 13, 14, 15 16, 17 18 19～21		会話文型・表現4 ・会話1 A B C ・会話2 A B C ・談話例	13 14, 15, 16 17, 18, 19 20～21
3	本文	22～27	9	本文	22～28
	長文読解練習1 本文	28～34		長文読解練習3 本文	29～37
4	本文	35～40	10	本文	38～45
	会話文型・表現2 ・会話 A B C D E ・談話例	41 42, 43, 44 45, 46 47～49		会話文型・表現5 ・会話1 A B C ・会話2 A B C ・会話3 A B C ・会話4 A B ・談話例	46 47, 48, 49 50, 51, 52 53, 54, 55 56, 57 58～59
5	本文	50～55	11	本文	60～66
6	本文	56～62	12	本文	67～73
	会話文型・表現3 ・会話1 A B C ・会話2 A B C D ・会話3 A B ・談話例	63 64, 65, 66 67, 68, 69 70 71, 72 73～75		会話文型・表現6 ・会話1 A B C ・会話2 A B C ・会話3 A B ・会話4	74 75, 76, 77 78, 79, 80 81, 82 83
	長文読解練習2 本文	76～82			

CDマークの見方



ディスク番号  
トラック番号

注意：



このマークが付いているものは  
「別売CD」に収録されています。  
(各課の聞き取り練習)

## 目 次

第 1 課 主題・対象を示す	[ カタカナ言葉 ] ····· 1
第 2 課 時・場面を示す ( 1 )	[ 鉄腕アトムを目指せ ] ····· 1 5
談話で学ぶ会話文型・表現 1 - 誘う～ためらう～説得 -	[ それはそうだけど ] ····· 3 2
第 3 課 事柄を並べる	[ 食生活を見直そう ] ····· 3 9
長文 読解練習 1	[ 三つの異文化体験 ] ····· 5 4
第 4 課 対象を限定・特定する / しない [ 4 つ目の R ] ·····	5 9
談話で学ぶ会話文型・表現 2 - 苦情～謝る～解決 -	[ ここに止められると困るんですよ ] · 7 4
第 5 課 事柄を加える ( 1 )	[ プレーパーク ] ····· 7 9
第 6 課 言い換える・まとめる	[ 実感 ] ····· 9 5
談話で学ぶ会話文型・表現 3 - 相談～提案 ( 賛成・反対 ) ～決定 -	[ それでいいんじゃない ] ····· 1 1 0
長文 読解練習 2	[ 長寿国にふさわしい社会 ] ····· 1 1 6



第 7 課 事柄を加える ( 2 ) [ 原因はどこに? ] ····· 1 2 1

第 8 課 時・場面を示す ( 2 ) [ 言葉の世界を楽しむ ] ····· 1 3 7

談話で学ぶ会話文型・表現 4 [ 朝一番でお願いします ] ····· 1 5 4  
- 指示 ~ 訂正・変更 ~ 確認 -

第 9 課 因果関係を示す [ あいまいな境界線 ] ····· 1 6 1

長文 読解練習 3 [ テレビを見る時間・見ない時間 ] · 1 7 5

第 10 課 逆接のつながりを示す ( 1 ) [ マニュアルとユーモアセンス ] ··· 1 8 1

談話で学ぶ会話文型・表現 5 [ もう少し気をつけていれば ] ··· 1 9 7  
- 反省 ~ 慰め・同情 ~ 励ます -

第 11 課 条件を示す [ 税金に関心がありますか ] ··· 2 0 5

第 12 課 逆接のつながりを示す ( 2 ) [ 系統樹とその先 ] ····· 2 2 5

談話で学ぶ会話文型・表現 6 [ おっしゃることはわかりますが ] · 2 4 4  
- 意見 ~ 対立 ( 討論 ) ~ まとめ -

索引 ····· 2 4 9

文型・表現シラバス一覧表 ····· 2 6 8

< 付録 >

- ・ 聞き取り練習スクリプト・解答  
文型・表現練習の解答例
- ・ CD ( 2 枚組 本文・会話文収録 )

\* 聞き取り練習 CD は別売 ( 定価 1200 円 )

